

つくり出せるチャンスでもあるからです。

価値の創造が 価値である時代になる

——会長特別提言として人口減少問題を取り上げられてから10年近くが経過しました。学会関係者の反響は大きかったと思いますが、それから現在までの社会資本政策についてどのようにお考えでしょうか。

丹保——まだ実感がなく、動いていないのが現状ではないでしょうか。少子化対策はどの時間スパンで何を目標にしているかが不明確です。移民を入れて、労働力を増やすという意見もありますが、わが国の資源やエネルギー量から考えると、無謀なことです。キャパシティがないところに人を集めたら、自分の首を絞めてしまうことになります。ですから、今より人口が少なくなってもいいと考えることです。しかし、日本は人口、経済両面で世界の基幹となる国であることを諦める必要はありません。スウェーデンやカナダの生活を見たらもつと質素に、しかしもつと強力に動けるはずです。

今後、途上国の成長で、食料も水も油も、長距離大量輸送でも容易に手に入らなくなれば、それぞれの地域で自立していくことが求められるでしょう。そういう意味では、人口減少の先には、地域でまとまる中世のような時代がくるかもしれません。それは新中世（後近代）とも呼ぶべき時代で、私はそれをポストモダンと言っています。21世紀の最後の頃は大幅転換点でもあるのです。

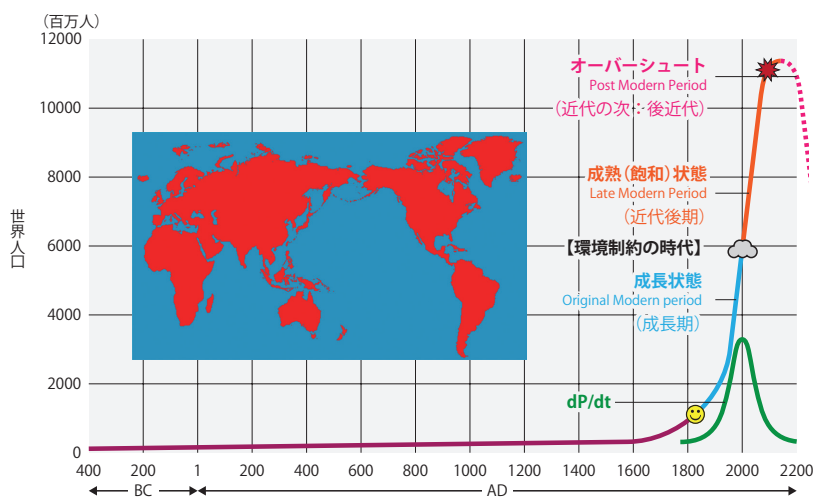


図1 近代以降の文明の定義

次の時代は活力があるかないかは、わかりません。もしかしたら、活力という価値で測れないのかもしれませんが、私は「価値の創造が価値である時代」と言っていますが、価値をつくることです。価値として認められる時代が次の時代なのです。今までは、ものをつくったり、金を儲けたり、早く教授や会社役員になるというように足の速さを競う世界でした。新たな価値観は自動的に生まれてくるものではありません。毎日毎日、暮らしの中で試行錯誤しながらつくり上げていかなければなりません。しかも、最初は誰か先駆者

世界エネルギーの時代

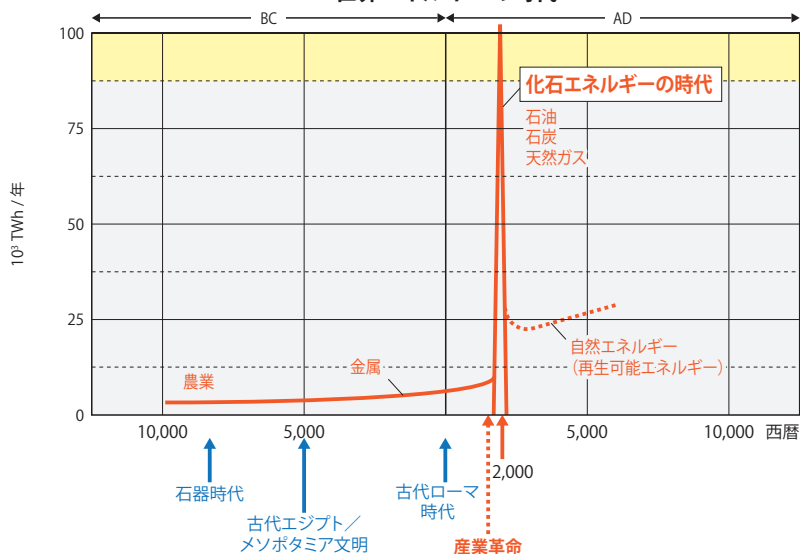


図2 世界のエネルギー消費量の推移 (石井吉徳氏のホームページ: 1975年オレゴン州知事の報告参照)

が言っているだけでも、みんなが言うようにならないければ社会は動きません。みんなが思ったときに社会は初めて動き始めるのです。

必要となるところに必要なものを、 最小限のエネルギーで

——100年先を見据えて整備すべき社会資本の具体像をお聞かせください。

丹保——新しい文明では、スーパーマーケットの論理はやめるべきです。スーパーマーケットは、たくさん魚を仕入れて、それを安く売る。だから、